

〔平成26年度明専スクール〕

「企業で働く」意味とこれから

情報工学府情報システム専攻M2 田尻 貴寛



明専スクール参加のきっかけ

就職担当の方から案内を受けたときは参加に対して特別に意識が高かったわけでも、理由があったわけでもなかったのを覚えています。ただ就職活動を経て、「企業とは何か」と色々考えた結果、そろそろ学生気分を卒業しなくてはならないと薄々感じたことが参加のきっかけとなったのではないかと思います。

おそらく、「就職活動が終わってひと安心、あとは残りの学生生活を楽しく過ごすだけ」というのが内定式を終えたこの時期の学生の気持ちだと思います。ただ、少しでも働くとはどういうことか考えるだけで、

入社後の意識も今のあり方も変わっていく気がします。具体的には私もまだ「プロ」として働いていくことがどういうことかはわかりませんが、明専スクールを通して自分を変えていくきっかけになりました。後輩たちにも是非、明専スクールに参加して、こういったきっかけをつくってもらえたらと思います。

講義「技術者のあるべき姿」

明専スクールでは3日間の各日程のなかで様々な講義を受けることができます。主に就職についての心構えや、企業人のあり方についての講義ですが、九州工業大学の歴史や出張報告書の作成といった実践的な講義まで用意されており、どれも興味深い内容でした。

私が印象的だと感じたのは1日目の講義のなかにあった技術者のあり方についてです。技術者の定義や理想というのは大学の講義でも学び、大体分かっていると思っていました

が、今回の講義を通して自分の認識はあまりにも抽象的だと感じました。「技術者は製品を提供し続けること、そのために果たさなければいけないことを認識し、日々実践していかななくてはならない」と現役の技術者の先輩方に言われて、学生と技術者の違いをはっきりと認識することができました。また、それを踏まえてこれから少しずつでも自分を変えていこうと思いました。

グループ討議「企業で働く」とは？

明専スクールの中でメインとなる講義であり、参加した学生が一番印象に残ったのがこのグループ討議ではないかと思います。大学の講義でもグループで議論や発表を経験することはあると思いますが、第一線で活躍する現役の企業人の前で、いまだ経験したことのない「企業で働く」意味を真剣に考えることはほとんどないと思います。

おそらく明専スクール前にこのテーマについて議論し、発表しても意味がなかったと思います。1日目の講義を終えて、今の自分のままでは企業で働くのに不十分だと認識できたことが、結果として有意義なグ

ループ討議を行うことにつながったと思います。最終的に、働く意味を大まかに「成長と貢献」と結論付けましたが、他のグループにはなかった「これからの自分のあり方」を加えたのは明専スクールで少し自分が変わった証拠ではないかと思っています。



テーマについての議論風景

明専スクールを終えて

最後に、私たち九州工大生のために明専スクールという貴重な経験の場を設けていただいた明専会および大学関係者の皆様に感謝いたします。この経験をこれからの自分の成長に役立てていきます。